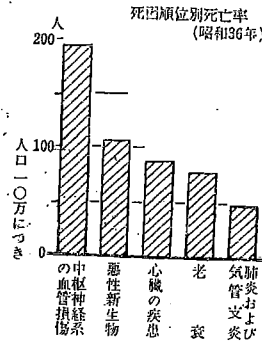


### 103. 原因別死亡者数(1)

昭和9~11年の平均死亡率は人口1,000人に付き18~19人であったが戦後はいちじるしく低下し、28年以降は死亡率10人以下となり36年で8.2人と戦前の半数以下に減少した。これらの原因は我が国の予防ならびに臨床医学の向上にあるところが大きい。

なお、死亡者の死因別をみると脳卒中、悪性ガン、心臓疾患といわれる成人病が1~3位までにあり、ついで老衰、肺炎および気管支炎の順位となっている。また特に注目されるのは不慮の事故死(自動車事故)が全国的に増加した。



死因	昭和34年	昭和35年	昭和36年
総数	18 529	19 345	19 271
呼吸器系の結核	682	702	625
その他結核	73	43	47
梅毒およびその続発	60	51	55
腸チフス	1	—	—
猩紅熱およびレンサ球菌口峽炎	83	58	74
ジフテリア	24	20	6
百日咳	4	1	—
急性膜性肺炎	4	3	—
急性細菌性肺炎	5	2	3
麻疹	32	18	26
発疹チフスおよびそのリケッチア	—	—	—
マラリア	2	2	1
伝染性および寄生性として分類されたその他の疾病	124	137	108
悪性新生物	2 423	2 461	2 472
良性および性質不詳の新生	114	135	131
糖尿病	79	76	95
貧血	32	31	31
中枢神経系の血管の損傷	4 099	4 369	4 546
髄膜炎	34	33	32
リウマチ	25	26	22
慢性心臓の疾患	126	114	147
動脈硬化症および変性心臓疾患	1 328	1 527	1 469
その他心臓疾患	412	485	488
高血圧性心臓疾患	147	261	300
その他の高血圧性疾患	220	229	246

厚生省統計調査部調「毎月人口動態概数」

### 103. 原因別死亡者数(2)

死因	昭和34年	昭和35年	昭和36年
インフルエンザ	45	67	49
肺炎	774	866	805
気管支炎	183	226	190
胃腸炎	371	349	349
虫垂炎	32	27	26
腸閉塞	101	121	109
胃腸炎、十二指腸炎、腸炎および大腸炎	494	455	405
肝炎	165	161	147
腎炎	421	367	415
前立腺炎	7	8	13
妊娠分娩および産褥の合併症	52	64	60
先天的天奇	96	95	94
出生時の損傷、分娩後窒息および肺不完全張	50	50	49
新生児の感染	158	135	132
その他新生児固有の疾患および性質不明の未熟児	606	566	518
精神病の記載のない老衰並びに診断不适当及び不明の原因	2 236	2 325	2 240
その他すべての疾患	1 379	1 437	1 399
自動車事故	223	291	319
その他不慮の事故	520	518	567
自殺	428	399	418
他殺および戦争	55	33	43

### 104. 理、美容所、旅館、公衆浴場等施設数

各年12月31日現在

年	理容所	美容所	普旅館	公浴場	衆場	温泉	泉用	興行場	クリーニング所
昭和30年1)	2 250	849	967	299	10	120	978		
31)	2 226	953	992	308	12	125	473		
32)	2 383	1 044	1 042	324	16	121	515		
33)	2 454	1 198	1 096	337	12	137	612		
34)	2 587	1 301	1 244	353	29	132	795		
35)	2 663	1 369	1 312	350	32	158	812		
36)	2 737	1 482	1 077	366	36	157	894		

環境衛生課調 (注) 1) は3月31日現在の数である。